

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	佐久山地区 （大神本田・福原地区）	令和3年3月25日	令和4年2月10日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	282.80 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	160.18 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	73.35 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	32.69 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	17 ha
（備考）	

2 対象地区の課題

<p>地図全体として水利の問題が多く、基盤整備の未整備な地域は、水利費が過度な負担になっている。</p> <p>福原の南部や大神の山間部といった開田地帯は、基盤整備をしていなく、圃場も段状で点在しているため、草刈りや水利の維持管理に時間が取られる。</p> <p>多面的機能支払の活動がある地域があるが、近年農業者の認識の低下から存続が危惧されている。獣害（ハクビシン）が発生している。</p> <p>塩那台と呼ばれる地域は、地区外の酪農家が主に牧草地として利用しており、現状耕作できているが、将来的に原野化する危険性がある。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地区全体として、条件不利地での営農継続には限界があるので、土地改良を推進し、地区の担い手3名を中心に集積・集約化していく。</p>
<p>若い担い手を中心に、集団化への取組の実施、最終的には法人化への取組を検討していく。地元では大神本田及び福原本田の中心地にライスセンターができると効率化が図れ、担い手の受け入れも推進できると思われるので、実現に向けた検討を重ねていく。</p>
<p>借り手の負担となっている水利費については、基盤整備の促進等により、負担を軽減させていければ耕作意欲の向上にもつながるので、実現に向けた検討をしていく。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>基盤整備への取組方針</p> <p>農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めていく。</p>
<p>多面的機能支払の取組方針</p> <p>耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ形成及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。</p>
<p>ライスセンター設立への取組方針</p> <p>地域農業の効率化を図るために、地元で担い手と呼ばれる農業者で集団化・法人化を図り、ライスセンターの設立について検討していく。</p>